

2006年12月30日

2007-11

NANIWA 43号

今年ももう残りわずかとなりました。激動の一年であったとともに来年は私たちにとって、よい年になりますように、ともにがんばりましょう。

この一年はいろいろなことがありましたが、私たちの主張はしっかりとしてます。来年には裁判闘争についても一定程度の方向が見えてくるものだと確信します。

報告

年度末におこなわれた、財産裁判について傍聴しましたが、脇山証人の陳述、話、態度、すべてにがっかりしました。しかし、私の偏見で、あれは本当の姿ではないと思います。一人ひとりの意見を大事にし、論議していたころが懐かしくも思えます。これは労働組合が変わったので、方向性もすべてにこの会社の色に塗り変わってしまったからだと思います。全損保の暖かい気持ちで舵をとっていればみんな一緒に今もいられたのかも知れません。いつからそうなったのか定かではありませんが、何か見えないものにとりつかれているのでしょうか。今こうしている中で、テレビからは「元フセイン大統領」が処刑されたなどの報道を聞き、なんて皮肉なことなんだろうと思います。

追伸、「私たちの闘いはひとり一人の要求方針にぶれなく、腰をすえ、足元をしっかりと見据えた闘いにしていく。みんなの雇用と生活と制度を維持していくために団結し、経営と対峙していく。」

当時のこの基調報告を信じがんばっていきます。 「一言一句覚えていない」???

ひとりはみんなのために みんなはひとりのために

全損保日勤外勤支部大阪分会